

# 東北地方太平洋沖地震にかかる 救援物資のお礼

被災地に送る救援物資の受付を平成23年3月18日から3月25日まで行い、皆様からたくさんの救援物資をいただきました。皆様の善意に心よりお礼申し上げます。いただきました救援物資は、県を通じて被災地へ送られましたので、ご報告させていただきます。  
ご協力ありがとうございました。



▲物資受付の様子

## ■ご提供いただいた救援物資

- ①保存食      カップ麺 1,185個  
                  インスタント麺 182個  
                  乾パン 130個
- ②水              ペットボトル500ml 234本  
   2ℓ 391本
- ③その他飲料    ペットボトル500ml 110本  
   2ℓ 131本
- ④生理用品     1,199袋
- ⑤粉ミルク     48缶
- ⑥紙おむつ     幼児用236袋  
   大人用149袋
- ⑦毛布           216枚



## 空家募集



### 被災された方々の一時避難場所の募集

東北地方太平洋沖地震で被災された方々の一時居住場所として利用可能な空き家を募集しています。

ご提供いただける方は役場企画情報課（☎0859-54-5202）までご連絡ください。物件の内容など詳細をお伺いします。受付時間は土・日・祝を除く午前8時30分から午後5時15分までです。ご協力よろしくお願いします。

## 鳥取県災害応援隊の一員として 石巻市の支援に参加しました

### 雑感

税務課 主事 松田 剛

3月26日から一週間、宮城県石巻市の避難所の支援に行ってきました。主な仕事は避難所の運営でした。私がお手伝いをした避難所は、石巻市立鹿妻かづま小学校でした。

鹿妻小学校で生活している避難者はおよそ1,000人。避難所ですでに感じたことは「寒さと埃ほこりっぽさと独特のにおい」でした。依然として上下水道、風呂、ガスは使用できませんでしたが、電力は使用可能でした。ストーブは数が足りないため使用していませんでした。また衛生状態が悪く、感染症が広がりつつありました。それを食い止めようと全国各地から派遣された看護師の皆さんが走り回っていました。先の見えない避難所生活はプライバシーもうまく保護されず、過酷で、幼い子どもやその家族、高齢者には特に辛いだろうと思いました。

しかし、そんな中でも多くの避難者の皆さんは明る

く前向きでした。避難所にはすでに自治組織が成立しており、避難所の運営は避難者によってなされていました。特に大学生を中心とした若者たちが活躍していて、彼らがこれから町を作り直していくと思うと本当に頼もしく感じられます。

活動を終え、鳥取県に向けて出発する時、このまま帰ることがとても辛く感じられました。避難所のみなさんが「将来、石巻がきれいな町に戻ったら、また遊びに來い」と言ってくれたことが一番印象に残っています。絶対に行こうと思います。

これから被災地が復興していく過程で次々に新たな問題点が出てくると思います。今後も何らかの形でお手伝いができればと思っています。



▲石巻市内は津波によりガレキの山に